
令和4年度 比内支援学校 全校研究について

1 研究主題

児童生徒が主体的に課題を解決する力を育てる単元づくり
～地域に展開する学習を通して～
2年次／2年

2 研究主題設定の理由

(1) 過年度の研究から

令和元年度、2年度の2年間、『児童生徒の「やりたい」と「どうしてだろう」と「なぜなら」が
つながる授業づくり～主体的・対話的で深い学びの視点を生かして～』の研究主題の下、授業づくり
について研究に取り組んだ。過年度の研究を通して見いだされた「授業づくりの5つのポイント」を
活用して授業づくりに取り組む中で、主体的・対話的で深い学びの視点を生かした授業づくりを可能
にする新たな要点をいくつか見いだすことができた。昨年度からは単元づくりを主題に掲げ、地域と
目標を共有し地域に展開する学習活動に取り組んだり、単元を通して課題解決を繰り返したりした
ことで、児童生徒が主体的に学習に取り組み課題解決しようとする姿や、成功体験から自信をつけて
いく姿が見られるようになってきている。そしてそれらの取組を通して、単元づくりに有効と思われ
る点をいくつか見だし、単元の改善や授業の改善に取り組むことができた。今年度もこれらを活用
した授業づくり、単元づくりに取り組み、より一層授業や単元の質の向上を目指していく。一方で、
資質・能力の育成をするための単元づくりが十分とはいえないという課題も明らかになったため、昨
年度までの研究で明らかになった要点や有効点を活用しつつ、学習目標の設定や、児童生徒の成長を
定期的に見取る評価の工夫、成長に合わせて学習を発展させていく工夫をし、資質・能力を確実に身
に付ける単元づくりに取り組みたい。

(2) 学習指導要領から

学校と社会が連携・協働しながら新しい時代に求められる資質・能力を子どもたちに育む「社会に
開かれた教育課程」の実現に向けてカリキュラム・マネジメントの実現が大切であることが示されて
いる。また、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通し、そのまとめ方や重点の置き方に適切な
工夫を加え、資質・能力を育む効果的な指導を行うことの重要性について示されていることから、単
元や題材という時間のまとまりでそれらの構成を検討し、児童生徒の変容を見取りながら授業改善
することが必要だと考える。

(3) 学校の現状と児童の実態から

本校は昭和49年に開校し今年度で創立49年目となる。全校児童生徒数は昨年度より12名増
え126名（小学部29名、中学部39名、高等部58名）となった。児童生徒については、障害の
多様化の傾向にあり、情緒の安定やコミュニケーション、集団参加に課題がある児童生徒や、各学部
数名ずつであるが、生活全般に介助を要する児童生徒も在籍している。広大な農場、開校当時から本
校に理解のある地域のよさ、新校舎の機能という本校の特色を生かした教育活動を計画的に展開し、
定期的に児童生徒の変容を見取りながら学習内容を発展させることで幅広い実態の児童生徒が自立
的に社会参加できる力を育む取組を推進し、「本物の力」を育成できると考える。

以上のことから、今年度も単元づくりを研究主題に掲げ研究を推進する。これまで取り組んでき
た主体的・対話的で深い学びの視点を生かした授業づくりを基盤に、単元や題材というまとまりの

視点から授業づくりに取り組み、それらの実践を積み重ねて、児童生徒の資質・能力を育み、主体的に課題を解決する力を育てるための単元づくりの要点を明らかにしたい。

3 研究の目的及び目標

研究の目的は、単元の設定を工夫し、児童生徒の変容を見取るための評価の方法を検討して、その結果を受けて単元を改善することで、児童生徒が主体的に課題を解決する力を育てる単元づくりの要点を明らかにすることである。そのため、次のことを目標に設定する。

- ・児童生徒の実態把握から身に付けたい資質・能力を明らかにするとともに、それらを育成するための単元構成に工夫を施して、各教科等との関連付けを図り、より有効な単元展開、授業展開を検討する。
- ・知識及び技能を身に付け、それらを活用した課題解決を図るために、単元の中にどんな活動をどのように配置するか、どんな課題を設定するかなど、効果的な方法を探り、単元づくりに反映させる。
- ・児童生徒の変容を計画的、長期的に見取ることで、児童生徒自身が成長を実感するとともに、教師が単元や授業の改善を図るために、あらかじめ評価の視点や評価の時期を検討した上で評価を実施する。

4 研究仮説

過年度の研究で見いだされたポイントを活用しながら、地域に展開する学習やそれらを含んで構成される単元づくりに取り組む。育成を目指す資質・能力に迫るよう課題設定を工夫し、単元を通して主体的に課題を解決する機会を十分に設定する。また、評価規準と照らし合わせて定期的に児童生徒の変容を捉え、単元や授業の改善に生かす。それらを通して、単元の質が向上し、児童生徒が主体的に課題を解決する力を育てることができるだろう。

5 研究の内容と方法

(1) 全校授業研究会及び公開研究会に向けた単元づくりと単元の改善

- ・児童生徒の実態把握や、これまでの学びの記録を基に、身に付けたい資質・能力を明らかにするとともに、評価の視点を明確にし、単元づくりに取り組む。また、単元という時間のまとまりで長期的に児童生徒の変容を見取るために、抽出児童生徒を設け、年度の初めから定期的な評価に取り組む。単元づくりシート等を用いて単元構成を可視化し、いつ、どんな学習活動を設定するか、どんな評価を行うか等、学習活動の計画のみに留まらない単元検討会を行う。
- ・「主体的・対話的で深い学び」の視点を踏まえた単元づくりをするために、過年度の研究を通して得たポイントを活用する。また、計画的に（①授業における知識・技能を活用した課題解決場面②小単元、または単元の終わりのタイミング）児童生徒の変容を見取り、単元や授業の改善を行う。

(2) 単元や授業を通じた意図的な課題解決場面の設定

- ・単元の内容や時間のまとまりの中で、グループ等で対話する場面をどこに設定するか、児童生徒が考える場面と教師が教える場面をどのように組み立てるか等を単元づくりの段階で検討し、児童生徒が解決すべき課題を意図的かつ効果的に設定する。
- ・課題解決場面を十分に設定するとともに、それらの場面での児童生徒の発言や行動から変容を見取り、適切に評価し、必要に応じて単元や授業の改善を図る。

(3) 年間指導計画検討会の実施と各学年の計画の共有

- ・「各教科等を合わせた指導」の学習内容について検討するに当たり「教科別の指導」等の実施時期や内容について関連を確認し、その単元で扱う主な教科の目標や内容について確認する。また、年間指導計画検討会の場を活用し、定期的に児童生徒の変容や成長を捉え、それに応じて単元構成や指導内容を工夫する。
- ・地域資源の活用や、校内の他学部や他学年との効果的な共同学習を推進するために、各学年の検討用紙を全校で共有する。また、効果的な取組を紹介し合い、指導の参考にする。

(4) 職員研修の実施

- ・児童生徒に効果的に資質・能力を育むための単元づくりや、「主体的・対話的で深い学び」の視点を生かした授業づくり、授業や単元の質の向上に向けた研修会を行う。

(5) 一人一授業研究会の実施

- ・単元全体のおおよその展開を見通し、基本的に一つの学習集団において同じ単元を扱って教師が授業を提示することで、単元構成や授業に工夫を施しやすくし、授業者にも参観者にもそれらの工夫が分かりやすいようにする。また、それらを基に、本時においてどのような力を付けるのか、そのためにどのような学習活動を展開するのかを検討して授業づくりに取り組み、全職員が授業を提示する。
- ・評価の視点を明確にして児童生徒の変容を見取る。また、児童生徒自身が自分の成長を実感できるよう振り返り場面に工夫を施す。
- ・授業者の希望に沿ってあらかじめ指導助言者を決定することで確実に助言を得られる体制を整える。また、学部職員の参観者をあらかじめ割り当て、授業者、参観者双方に有意義な研修となるようにする。

6 研究計画

〈2年次〉

月	全体・学部	段階	研究活動の評価の観点
4	<ul style="list-style-type: none"> ・全体研究の立案 ・生単をつくる会 7日～14日 ・年間指導計画検討会①15日、19日 ・全校研究会①16日（研究の概要提示） 	計画	<ul style="list-style-type: none"> ・研究の目的の達成に向け、全体研究での取組が学部研究に適切に反映され、各学部に周知されているか。
5	<ul style="list-style-type: none"> ◎一人一授業研究会の開始（令和4年5月から令和5年2月まで） ・研修日①11日 		
6	<ul style="list-style-type: none"> ・全校研究会②1日（学部研究の概要提示） ・研修日② 	実践・評価	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒のこれまでの学びを基に単元の構成や課題設定、評価の場面や方法を工夫しながら資質・能力を育成するための単元づくりや授業づくりをしているか。 ・単元づくりのシート等を活用しながら課題解決の場면을意図的に設定し、その結果を評価し単元や授業
7	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回全校授業研究会 4日（高等部） ・第2回全校授業研究会 12日（中学部） 		
8	<ul style="list-style-type: none"> ・職員研修 2日 ・年間指導計画検討会② 22日 ・研修日③31日 		
9	<ul style="list-style-type: none"> ・第3回全校授業研究会 12日（小学部） 		

10	・研修日④12日		<p>を改善しているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「授業づくりの5つのポイント」や「授業づくりの要点」を意識した授業づくりをしているか。 ・「各教科等を合わせた指導」において、「各教科等」のどのような「目標」や「内容」を含んでいるのか授業者で共有し、児童生徒が何をどのように学び何が身に付くのか明らかにして授業づくりに臨んでいるか。（目標や指導内容に表れているか。）また、それらの達成状況が定期的に評価され、指導に反映されているか。 ・授業のめあてが適切に設定され、児童生徒に提示されているか。 ・めあてから活動内容、まとめ、振り返りがつながっているか。
11	・研修日⑤30日		
12	<ul style="list-style-type: none"> ・公開研究会7日 ・研修日⑥14日 ・全校研究会③21日（研究の進捗状況の確認） ・研究紀要の原稿執筆 		
1	<ul style="list-style-type: none"> ・年間指導計画検討会③11日 ・研修日⑦24日 	まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の変容とその要因が明確になっているか。 ・単元づくりの要点が明らかになっているか。 ・成果や課題、次年度への方向性が仮説に基づいてまとめられているか。
2	<ul style="list-style-type: none"> ・全校研究会④8日（研究の成果と課題報告） ・年間指導計画検討会④15日 ・研究紀要の印刷・丁合・製本 		
3	・研究紀要の完成・配付		